

mm/ style

FurnitureMaker PICO シリーズ

設置説明書

注意事項

※ この商品は一般住宅およびそれに準じる居住施設の屋内専用です。
他の用途へのご使用はおやめください。
屋外および浴室内部など頻繁に水分と接するところには使用しないでください。

<最初にお読みください>

- 設置開始前に必ずお読みください。
- 設置者の安全と使用者の安全確保のために、この設置説明書をよくお読みになり、安全で正しい設置を行ってください。
- 梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
- 取扱説明書は保証書に必要事項を記載のうえ、必ずお客様にお渡しください。(設置完了後、使いかたを説明してください。)



必ず2名以上で設置する

目次

一般的な設置場所の確認事項	p.2
補強棧の取付位置と取付要領	p.3
ユニットの設置	p.4~9
カウンターの設置 / フィラーの取付	p.10~11
取り付け・調整・他	p.12~16
施工後の確認	巻末

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



気をつけていただく内容です。

警告



分解禁止

- 絶対に改造・分解・修理をしない
けがの原因になります。
(修理のご相談はお客様相談窓口へ)



禁止

- カセットコンロなど火を使う機器を使わない
火災の原因になります。



必ず守る

- 各家電製品の指定する空間寸法を
設けて使用する
故障や火災の原因になります。

注意

家電用スライド棚・多目的スライド棚



必ず守る

- 出し入れはゆっくりと行う
指をはさむおそれがあります。
- 家電製品を使用するときは、必ず引き
出して使用する(ただし炊飯器・
ジャーポットの保温時は除く)
ユニット内に蒸気がこもり、水滴の発生原因になります。

扉・取手



禁止

- ぶら下がらない
- 大きく開けすぎない



必ず守る

- 扉が傾いたり、がたついているときは、
ヒンジ(ちょう番)のねじを締め直す
扉が外れて、けがをするおそれがあります。

フロートユニット(床から浮いて設置された箱)



禁止

- 乗らない、座らない
箱が外れて、けがをするおそれがあります。

棚板



必ず守る

- 棚板の目安積載量はサイズにより異なり
ます。P5の棚板耐荷重の目安をご参照
ください
- 可動棚の位置調整時には、棚板を棚受
けにきっちりとはめる。
棚板が外れて、けがをするおそれがあります。

引出し



禁止

- ぶら下がらない
引出しが外れて、けがをするおそれがあります。

一般的な設置場所の確認事項

この商品は **壁面固定が基本です。**

壁面に強固に固定できるよう必ず下地の確認を行い、
必要な場合は補強板や補強棧の取付けをしてください。

● 集合住宅など木造以外の構造の場合以下を確認のこと。

標準施工・アンカー施工以外の施工方法は、ユニットの組み合わせによって、施工できない場合がありますので注意してください。

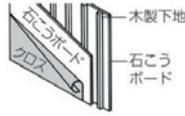
間仕切り壁

軽鉄製下地間仕切り壁



標準施工

木製下地間仕切り壁



標準施工

外壁

RC(またはALC)壁 + GL壁



アンカー施工

RC(またはALC)壁 + 木製・軽鉄下地壁



アンカー施工

戸境壁

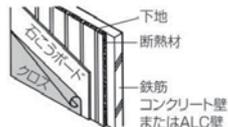
RCクロス直貼壁



アンカー施工

集合住宅のアンカー施工は
事前に確認が必要です。

RC(またはALC)壁 + 木製・軽鉄下地壁



標準施工

RC(またはALC)壁 + GL壁



アンカー施工

集合住宅のアンカー施工は
事前に確認が必要です。

軽鉄下地乾式壁



施工不可

外壁

外気と接する壁。
壁の内側か外側に断熱材が施工されている

間仕切り壁

住戸内を仕切る壁

戸境壁

自住戸と他住戸を仕切る壁

RC : 鉄筋コンクリート

ALC : 軽量気泡コンクリート

補強棧の取付位置と取付要領

● 下図を参考に取付けてください。

※仕上げがタイル圧着貼りなどの場合は、その下地材の厚みが 12mm 以上の耐水合板または、同等品以上の強度がある場合は補強棧の取付は不要です。

※取付ビスは同梱のビスセットをご利用ください。

※補強棧の寸法は推奨値になります。

取り付け前の確認

1 補強棧の取り付け位置と取り付け要領

補強棧の位置はプランによって異なりますので、商品に合わせて、下図を参考に取付けてください。

※ 仕上げがタイル圧着貼りなどの場合は、その下地材の厚みが 12mm 以上の耐水合板または、同等品以上の強度がある場合は、補強棧の取り付けは不要です。

※ 取り付けビスは同梱のビスセットをご利用下さい。

※ 補強棧の寸法は推奨値になります。

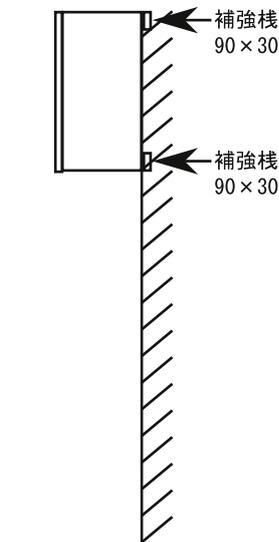


警告

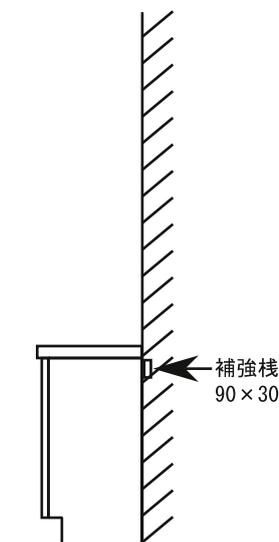


壁面に下図の補強棧が強固に固定されていることを確認する
補強棧は腐れのない補強棧を使用する
ウォールユニットが落下してけがを
おそれがあります。

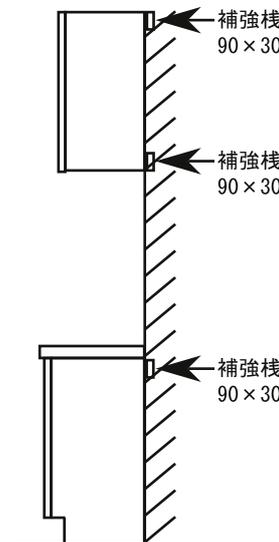
ウォールタイプ



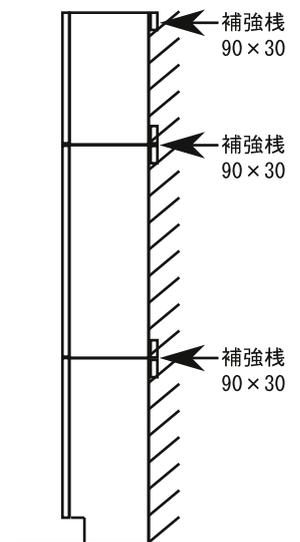
ローボードタイプ



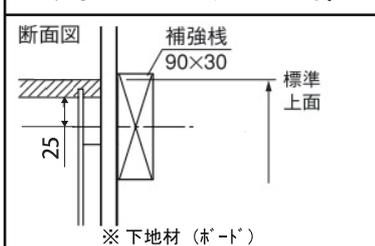
セパレートタイプ



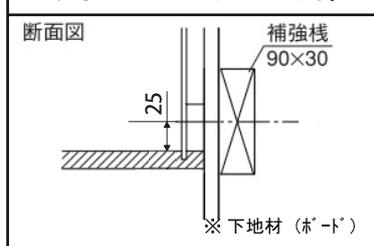
トールタイプ



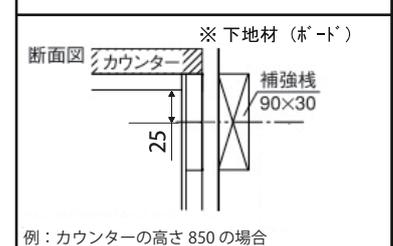
ウォールユニットの上部



ウォールユニットの下部



フロアユニット



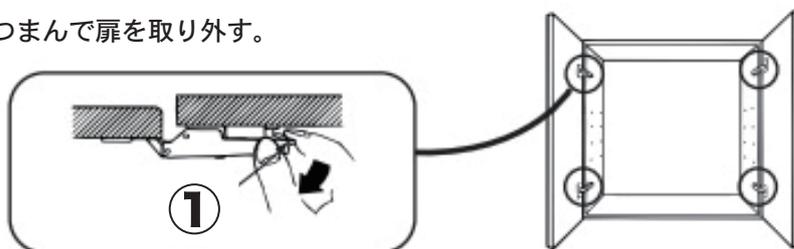
ユニットの設置概要

1 取り付け前の準備

扉の取り外し

扉をユニットから取り外すため、丁番①をつまんで扉を取り外す。

※詳細は p.5~6 参照



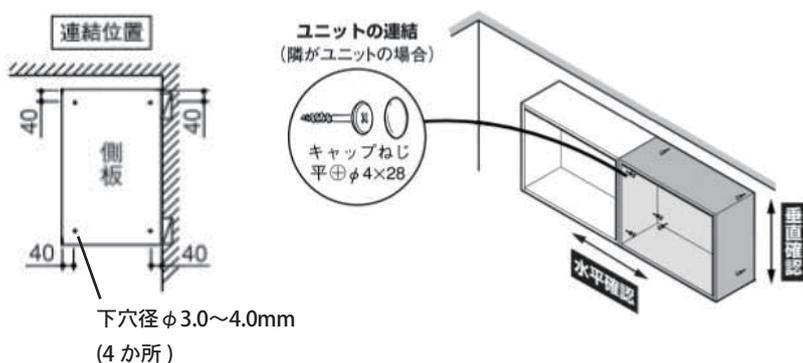
2 ユニットの連結

ユニットを連結および壁面固定する。

必ずウォールユニットを連結してから、壁面固定する。

壁面に固定してから連結すると、ユニット接合部に不具合が出ます。

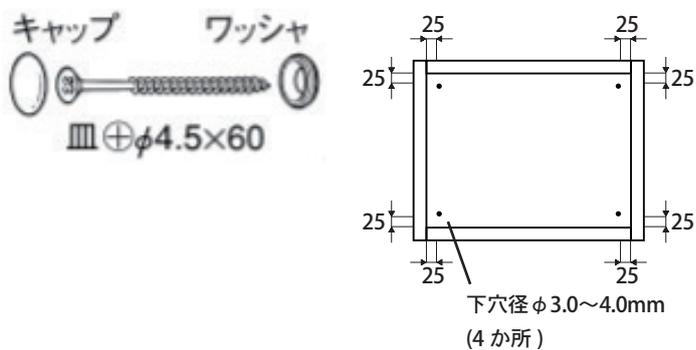
※詳細は p.7~11 参照



3 壁面固定

1. ユニット後板に固定用下穴を開ける。

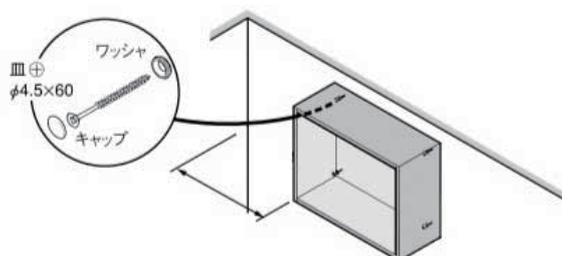
※詳細は p.7~11 参照



2. ユニットの壁面固定する。

※壁面に梁等の障害物がある場合は、避ける必要があります。

※詳細は p.7~11 参照



※次のような取り付け方はしない。

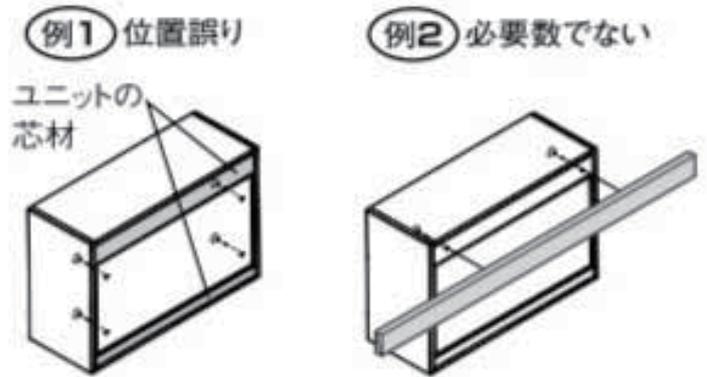
必ず下地棧に固定し、指定のねじで固定してください。

例1.

必ずユニットの芯材と下地棧固定位置を合わせること。

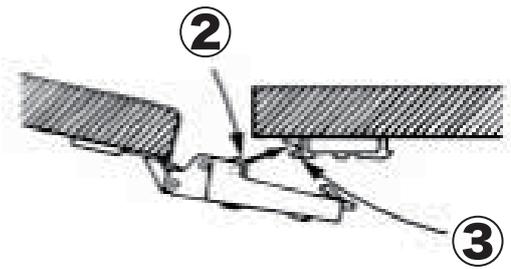
例2.

必ずユニットの上下指定位置の下地棧に固定すること。



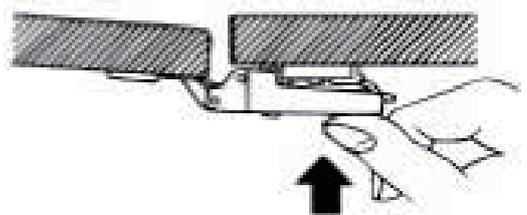
4 扉の取り付け（丁番の固定）

1. ②を③に差し込む。



2. 「カチッ」と音が鳴るまで押さえる。

扉を2,3回開閉し、丁番が確実に固定されていることを確認してください。

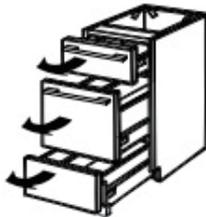


5 引出しの取り外し・取り付け

■ 引出しの取り外し・取り付け（鋼製・ソフトクローズ）

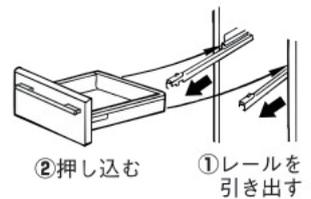
● 取り外し

いっぱい引き出し、少し持ち上げて引き抜く。



● 取り付け

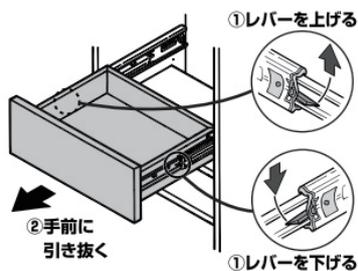
- ①左右のレールを引出し、矢印の部分に引出しを差し込む。
- ②「カチッ」という音がするまで引出しを押し込む。



■ 引出しの取り外し・取り付け（木製）

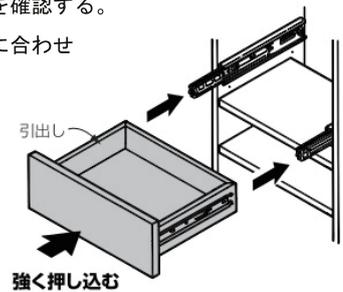
● 取り外し

- ① レールをいっぱいまで引き出し、黒いレバーを上げる。(下げる)
- ② 手前に引き抜く。



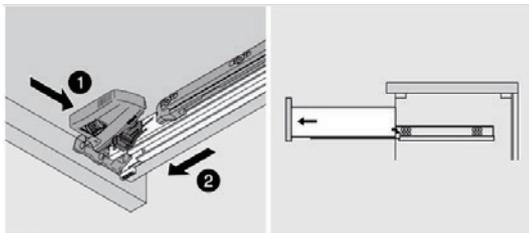
● 取り付け

- ① 本体側のレールを少し手前に引きレールのかみ合う位置を確認する。
- ② 木製引箱のレールを溝に合わせ強く押し込む。

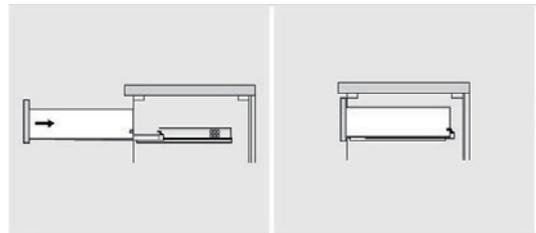


6 スライド棚の取り外し・取り付け

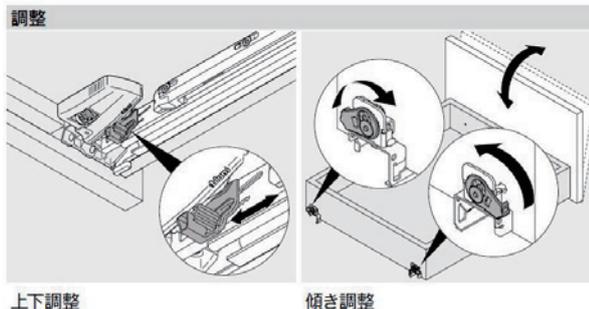
● 取り外し



● 取り付け



● 調整



上下調整

傾き調整

取り付けかた

1. フロアユニットの設置

1 設置前の準備

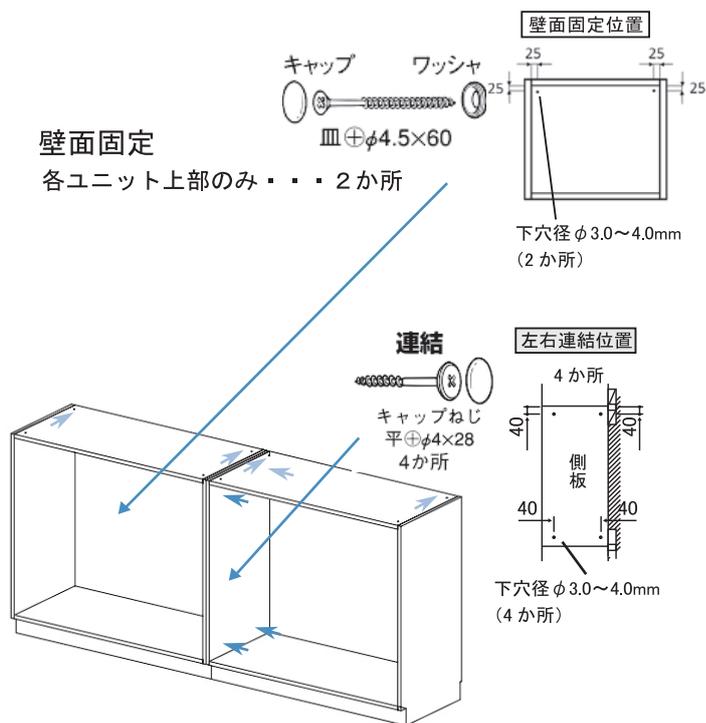
扉や引出しを取り外す。
(5~6 ページをご参照ください。)

2 ユニットの連結

隣のユニットと前面および上面を合わせて、付属のキャップねじでユニットを連結し、連結後キャップをはめる。

3 壁面固定

ユニットの前倒れ防止のため、後板に下穴をあけて壁面に固定する。



2. ミドルユニットの設置

1 設置前の準備

扉や引出しを取り外す。
(5~6 ページをご参照ください。)

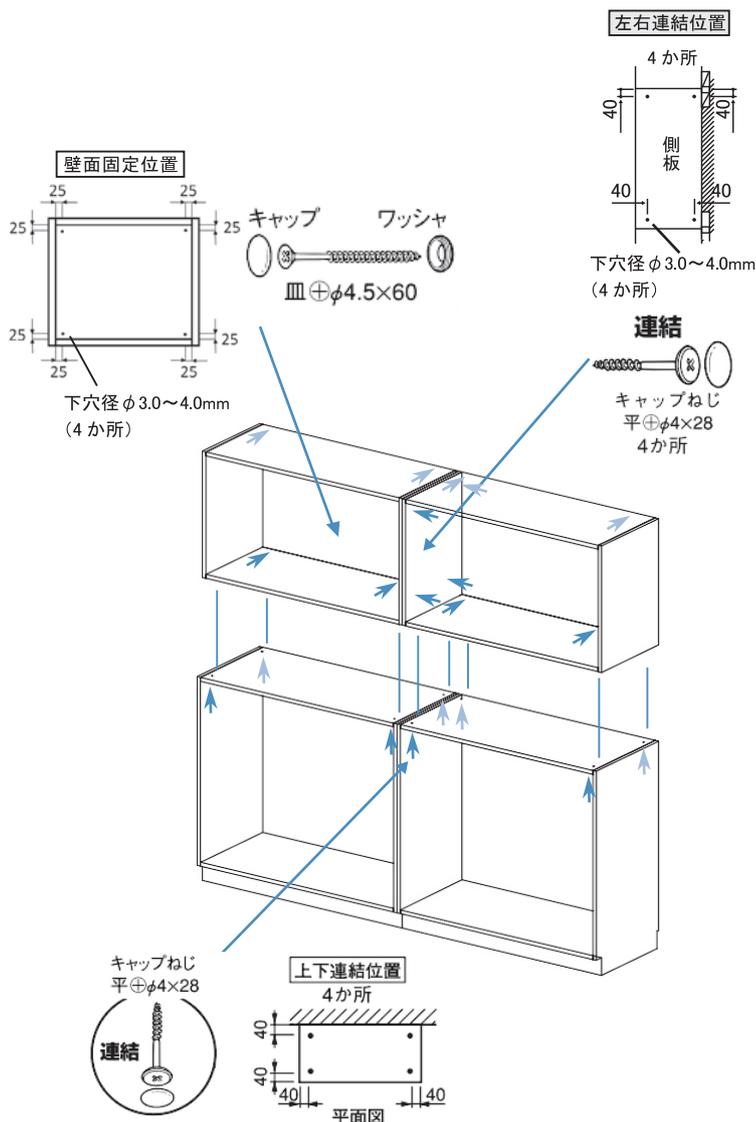
ミドルユニットを乗せるフロアユニットが壁面に固定されているか確認して下さい。

2 ユニットの連結

フロアユニット・隣接ユニットと面合わせし、付属のキャップねじでユニットを連結し、連結後キャップをはめる。

3 壁面固定

ユニットの前倒れ防止のため、後板に下穴をあけて壁面に固定する。



※ ユニートをビスで固定する際は、事前に下穴をあけてください。

3.ウォールユニットの設置（トールタイプの場合）

1 設置前の準備

扉や引出しを取り外す。

（5~6 ページをご参照ください。）

ウォールユニットを乗せるフロアユニット・ミドルユニットが壁面に固定されているか確認して下さい。

2 ユニットの連結

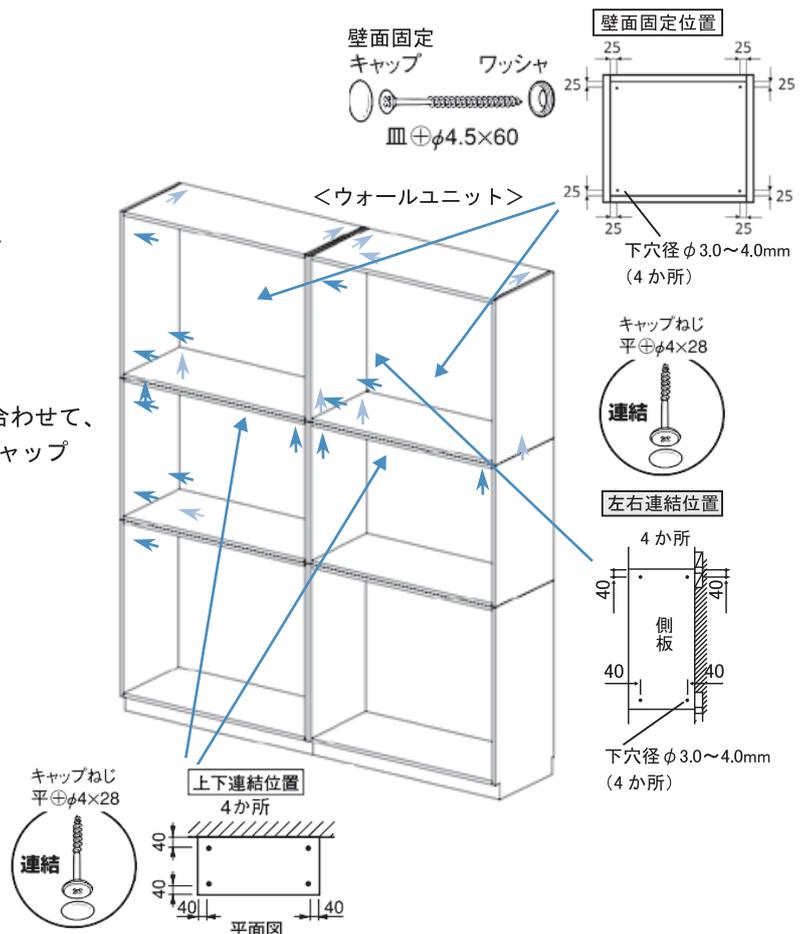
ミドルユニット・隣接のユニットと前面および上面を合わせて、付属のキャップねじでユニットを連結し、連結後キャップをはめる。

3 壁面固定

ユニットの前倒れ防止のため、後板に下穴をあけて壁面に固定する。

（側板部壁固定の場合）

- 付属のタッピンねじで箱内側板から壁面に固定し、キャップをはめる。
- フロアユニット・・・・・・・・上部2か所
- ミドルユニット・・・・・・・・上部1か所／下部2か所
- ウォールユニット・・・・・・・・上部1か所／下部2か所



4.ウォールユニットの設置（ウォールタイプの場合）

警告



必ず指定のねじを使い、補強棧にユニットを固定する
補強棧がない場合には、補強棧を追加してねじ止めする
ユニットが落下してけがをするおそれがあります。



固定ねじの補強棧への入り込みが10 mm 以上であることを必ず確認する
壁面への固定が不完全な場合、使用中ウォールユニットが落下してけがをするおそれがあります。
条件を満たさない場合は現場でねじを調達してください。

注意



ユニットの固定には、必ず指定のねじを使用する
ユニットが落下してけがをするおそれがあります。
位置に φ3.0 ~ 4.0 mm の下穴を開け、後板の棧木がある位置で必ず固定する
ユニットが落下してけがをするおそれがあります。



ウォールユニットは水平に取り付ける
耐震ラッチが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。



不安定な垂壁に設置する場合は、垂壁を補強する
ユニットが落下してけがをするおそれがあります。

1 設置前の準備

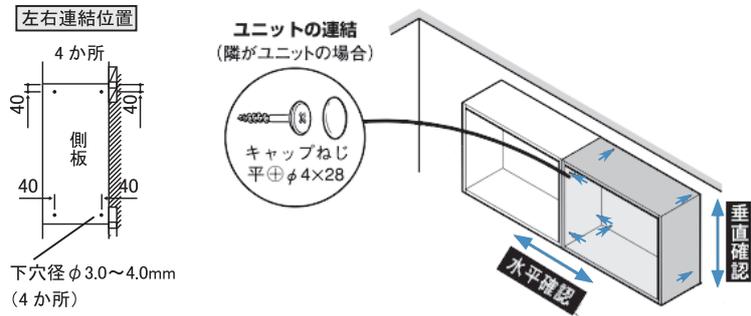
扉や引出しを取り外す。

（5~6 ページをご参照ください。）

※ ユニットのビスで固定する際は、事前に下穴をあけてください。

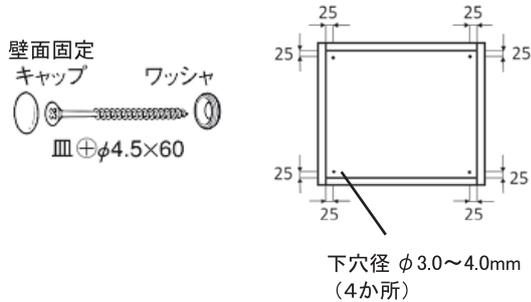
2 ユニットの連結

必ずウォールユニットを連結してから、壁面固定する。
壁面に固定してから連結すると、ユニット接合部に不具合がでます。

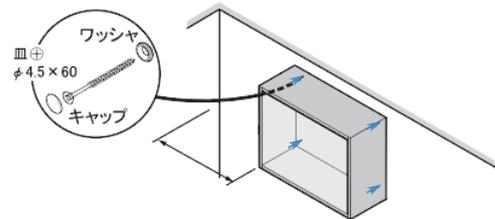


3 壁面固定

ユニットの後板に固定用下穴をあける。



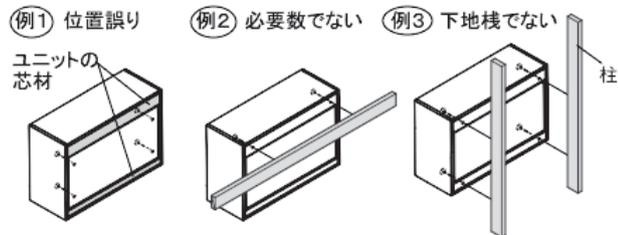
ウォールユニットを壁面固定する。



※ 壁面に梁等の障害物がある場合は、よける必要があります。

右記のような取り付けかたはしない。

必ず下地棧に固定し、指定のねじで固定してください。



5. カウンターの設置



注意

- ・カウンター端部で手を切ったり、基材のササクレで指に物が刺さったりすることがありますので、必ず手袋を着用して下さい。
- ・運搬時に落下して足を損傷することがありますので2名で作業をして下さい。

1 設置前の準備

カウンターを乗せるフロアユニットが壁面に固定されているか確認して下さい。

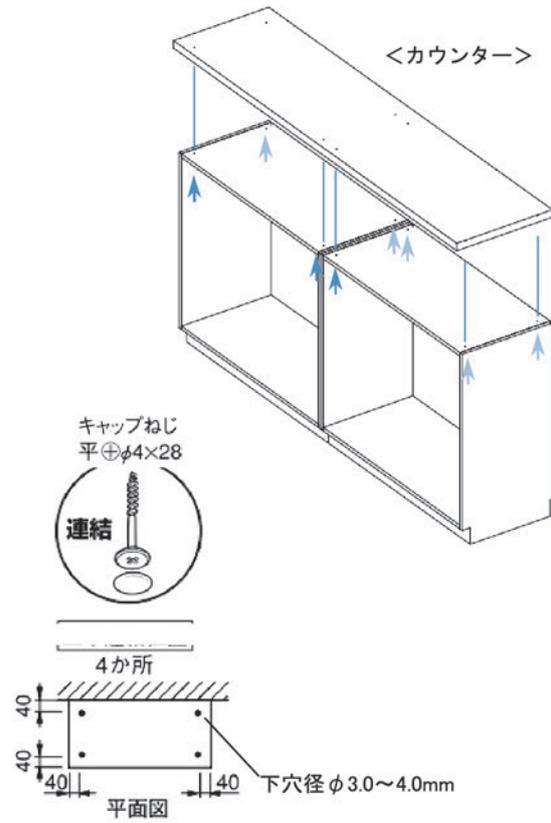
フロアユニットにカウンターを乗せ後面を基準に位置を合わせる。

2 カウンターの固定

ユニットの天板裏面およびカウンター裏面に下穴をあける。

ユニットの天板裏面よりキャップねじで固定する。

各ユニットにキャップねじを4か所固定して下さい。



6. フィラーの取り付け

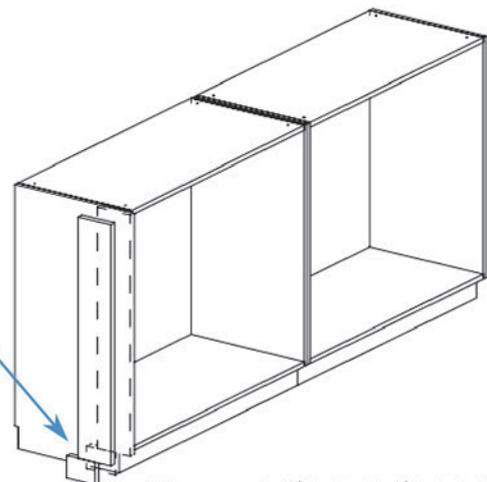
<縦面>

接着剤またはビスにてユニットに固定して下さい。

壁に設置される側板面にフィラー部材を取り付けて下さい。

現場カット

台輪高さに合わせてカットし前面をそろえる。



※ ユニット前面より前に取り付けをしないこと。

スリムビス
皿 ⊕φ3.0×25mm



10~20mm間隔にて利用



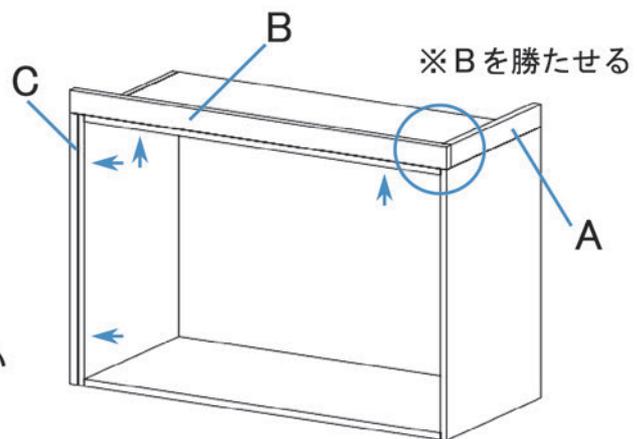
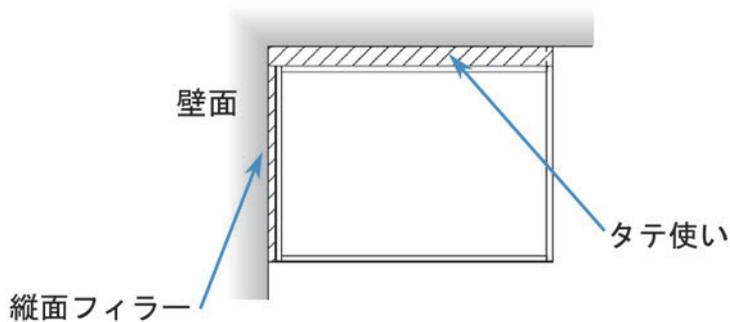
必ず守る

- 必ず付属の金具・ねじにて施工する
付属の金具・ねじで施工されていないと、製品を確実に固定できず、破損・落下・転倒によりけがをすることがあります。

<横面>

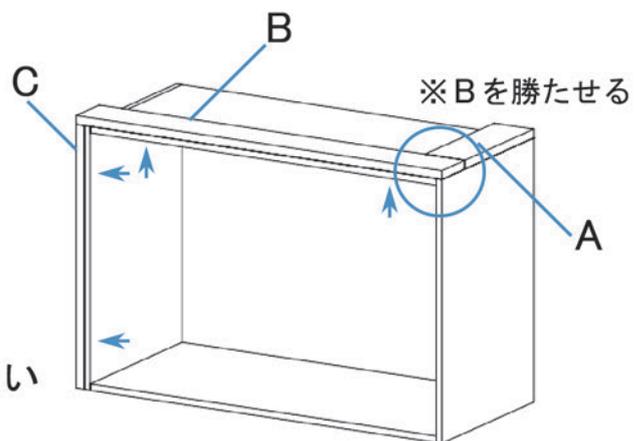
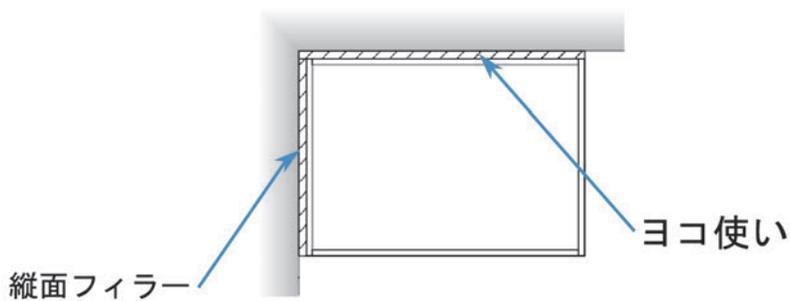
① フィラー材タテ使い

接着剤またはビスにてユニットに固定して下さい。

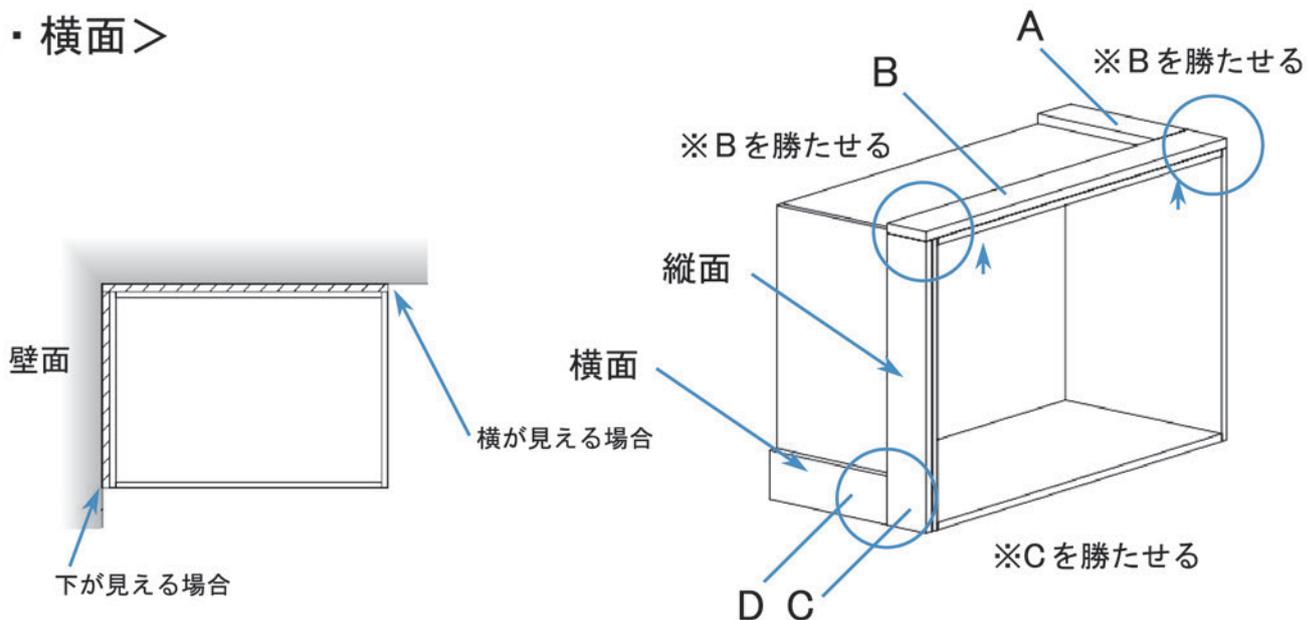


② フィラー材ヨコ使い

接着剤またはビスにてユニットに固定して下さい。



<縦・横面>



取り付け・調整

棚板の取り付け

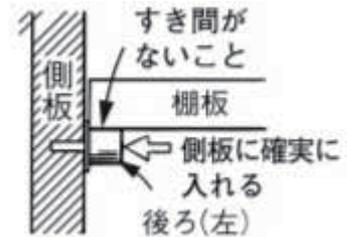


注意



棚受けのユニットの取り付け、棚のセットは確実に行う。
棚板が落下し、けがをするおそれがあります。

棚板はユニットに付属しています。
棚受けには前後があります。
※棚受けはユニット内に貼り付けています。



扉の調整

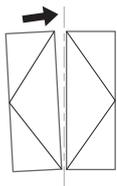
扉の取り付け(丁番の固定)



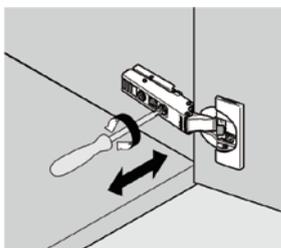
注意



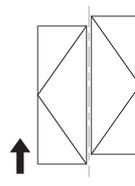
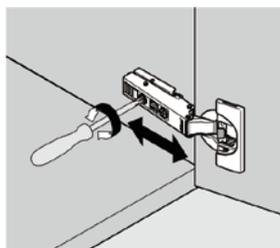
扉の調整は正しく行う。
耐震ロックが正しく作動せず、けがをするおそれがあります。



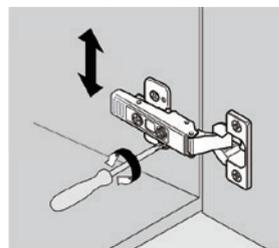
左右への傾き



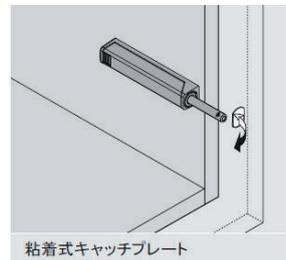
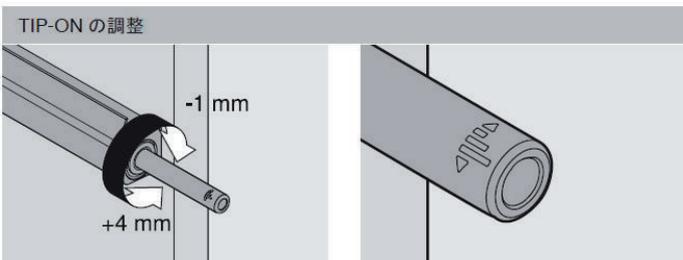
前後への傾き



上下への傾き



プッシュオープン金具の調整



鋼製引出しの調整

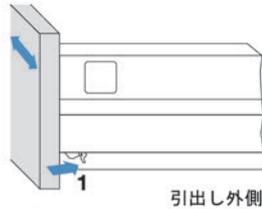
■ 鋼製引出し(ソフトクローズ)の調整

収納物を片寄りなく入れているか確認してください。それでも前板が揃わない場合は、調整をしてください。

調整方法

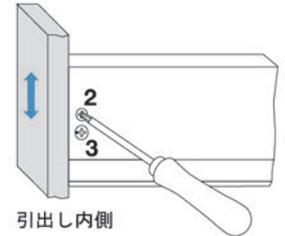
左右調整

- ・ 固定レバー(1)を後ろへ押し込んだ状態で保持
- ・ 前板を少し持ち上げて溝に引っ掛からないように動かす
- ・ 調整範囲 $\pm 1.5\text{mm}$
- ・ 希望の位置に調整して固定レバーを離す(1)



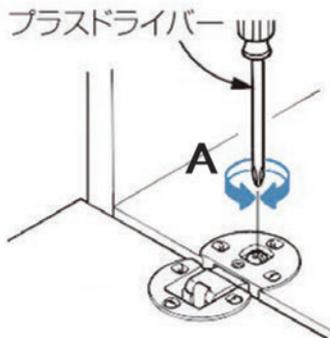
高さ調整

- ・ ネジをゆるめる(2)
- ・ 偏芯ネジで前板を希望の位置に調整(3)
- ・ 調整範囲 $\pm 2\text{mm}$
- ・ ネジを締め付ける(2)



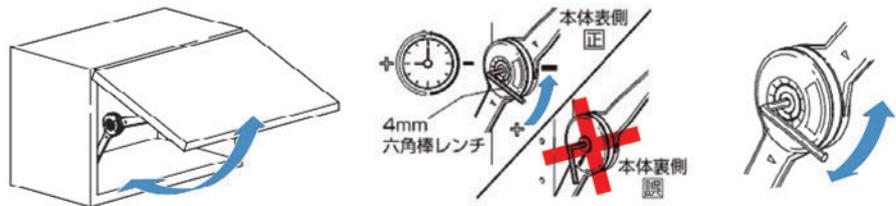
● 金具の調整

日常の開閉動作により、ねじが緩むことがありますので、がたつきがある場合は A にゆるみがある可能性がある為、締め直してください。



● フラップ・ステーの調整

トルク値の調整は、本体表側中央の4mm六角穴を回して調整してください。2本使いの場合には、調整は左右均等に行ってください。

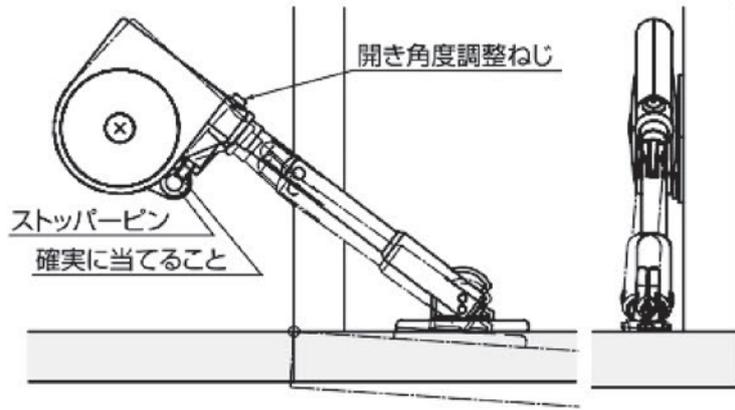


トルク値が弱くなり最適な作動を得られなくなった場合には再度調整を行ってください。

※ 調整後は、扉を実際に動かして最適な作動を得られたか確認してください。

● フラップダウン・ステーの調整

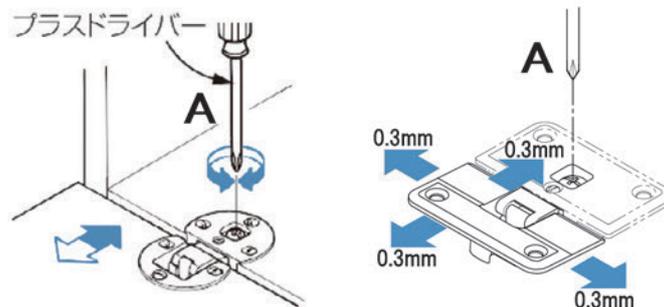
扉を最大に開いた時、アームが「く」の字に曲がらないようアームが真っ直ぐになるよう調整してください。
 ステーの開き角度調節ねじを座金のストッパーピンに当て、アームが真っ直ぐになるよう調整してください。



● フラップダウン(扉を揃える)

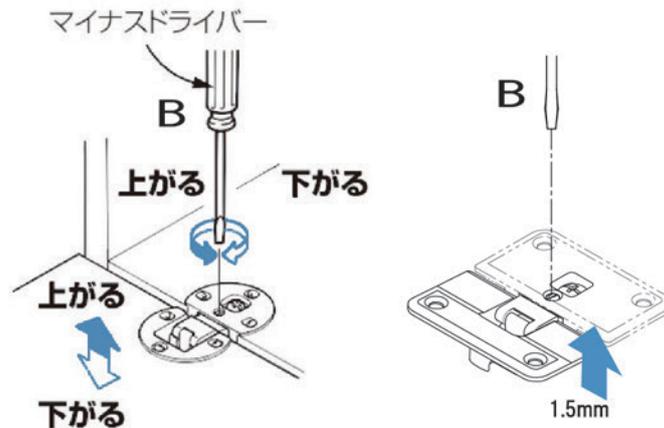
左右前後調整

- ① Aのねじを左に回してゆるめる
 (全ての丁番のねじをゆるめて下さい)
- ② 扉を左右前後に動かす
- ③ Aのねじを右に回して締める
 (全ての丁番のねじを締めて下さい)
 [左右調整±1mm、奥行調整+2.5/-0mm]



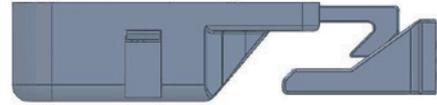
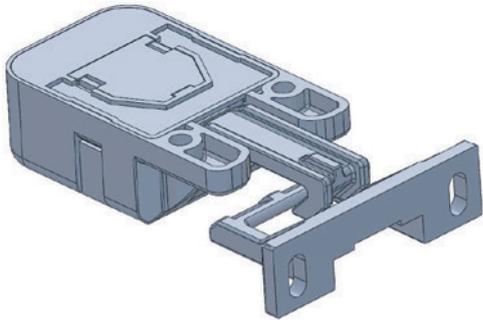
上下調整

- ① Aのねじを左に回してゆるめる
 ※この時、左右前後も動きますので
 注意して下さい
- ② Bのねじを左右に回す
 ※回しすぎるとねじが抜けてしまうので
 ご注意ください
- ③ 位置が決まったらAのねじを右に回して
 締める [上下調整±1.5mm]



※調整後、再度Aのねじが締まっているか確認してください。
 ※調整後は扉を2～3回開閉し、金具が固定されていることを確認してください。

地震感知ロック

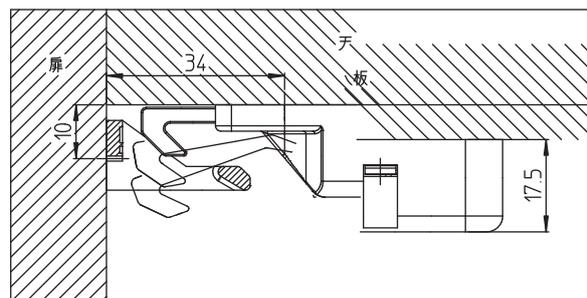
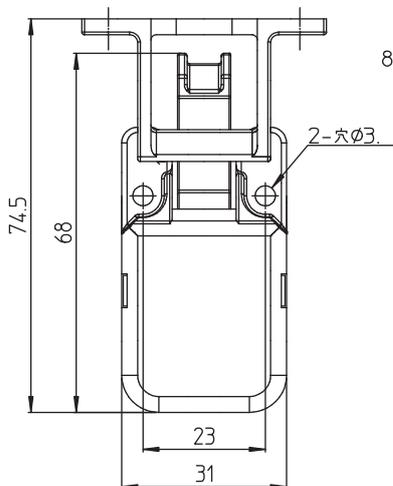
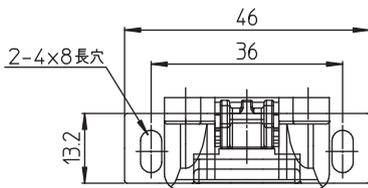


○特長

- ・地震が発生した場合に扉が開くのを防ぎます。
- ・主に腰よりも高くにある開扉の収納全般にご使用ください。
- ・普段の扉開閉時にはロックが掛からず、音鳴しません。地震が発生した場合にロックが掛かり、地震が納まると自動でロックが解除されます。
- ・高さが 18mm 以下と薄いので邪魔になりません。
- ・ロックフックの振り幅が大きいので施工許容差ロック精度が優れています。

○性能

- ・引張静荷重 400N でも扉が開きません。
- ・震度 4 以上の揺れでロックが作動します。
- ・地震の種類、振動の程度によっては作動しない場合があります。
- ・建物の構造、地盤、設置階数、収納物等によっては作動しない場合があります。

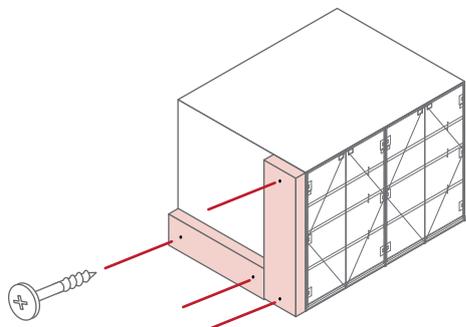


※自動解除式なので完全にロックを保証する訳では無いのでご了承ください。

フィラーの取付例

取付方法、ねじをつける位置

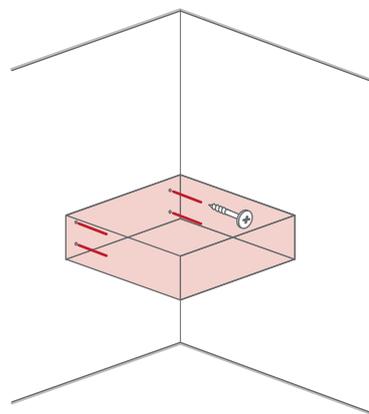
ねじがキャビネット内に侵入しないようご注意ください。
扉などがある場合は丁番・座金に干渉しないように注意してください。



H 寸法が低い時の注意

キャビネット内側から壁に固定する

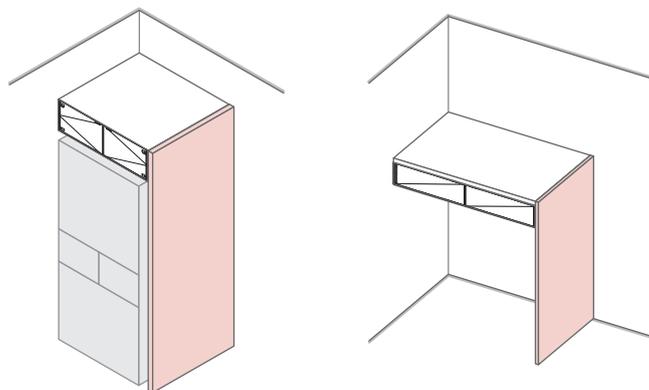
キャビネット寸法が $H < D$ の時は、壁との固定が必要です。
右図に従い、ねじを使って4箇所固定してください。



エンドパネルをつける

本品で冷蔵庫上吊り戸棚、カウンターデスクなどを作成するときは補強の為エンドパネルが必要となります。

エンドパネルはご自身で用意して頂くか、カスタマイズ品として弊社までご注文お問い合わせ願います。



施工後の確認

確認項目	YES	NO
① ユニットは壁面に確実に固定、すき間なく連結されていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 連結ねじ・壁面固定ねじには「化粧キャップ」がついていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 天井部・ウォールユニット部分のフィラーなど、「納まり部材」は確実に固定されていますか？（固定が不十分な場合、落下の危険性があります。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 引出しは正常に作動しますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 扉と丁番・台座は確実に固定されていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 「耐震ラッチ」は正常に作動しますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ プッシュオープンは正常に作動しますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 扉の目地・前面は揃っていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 商品の汚れや傷などが無いか確認されていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 施主様へ渡す「取扱説明書」はありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 施工後の養生時には、ガムテープを使用しないでください。
- 施工後、周囲の建築工事に支障のないようにダンボール材などで養生してください。（養生用弱粘テープを使用し、扉・側板などの化粧面には直接貼り付けしないでください。）

発行日 2019年11月5日

発行元


FurnitureMaker

ファニチャーメーカー株式会社

東京都渋谷区代々木 3-28-6 いちご西参道ビル 1階
TEL : 03-6300-9085
FAX : 03-6300-9086